

3月18日

主教教会博士エルサレムのシリル

Κύριλλος

(315頃～387)

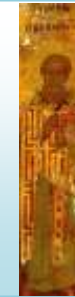
～4世紀の迫害された神学者～

<人名事典などでの別表記：キュリロス>

シリルはエルサレムの主教で、四世紀における傑出した神学者でした。彼は20歳くらいまで神学の研究をしながら、助祭としても教会に仕えていました。そして司祭となったのち、カイサリアの主教アカキオスによってエルサレムの主教に任命されます。ところが彼が主教になった後、アカキオスは異端であったアリウス派へと移ってしまいました。そのアカキオスの行動をシリルは批判し、またアリウス派にも反対を表明したために、アリウス派によって、357年に追放されてしまいます。359年のセレウキアの教会会議において、一旦シリルの復権が認められますが、その後もアリウス派によって二度追放されます。彼は35年間の主教生活のうち、16年間は流刑の身でした。

また、聖堂にあるたくさんの聖具のうち、ほとんど使われていないものをシリルは売りさばき、お金に変えて貧しい人たちに食物を買い与えました。そのことも、シリルが追放される要因の一つになったそうです。

さて、シリルは一貫してニカイア信条を擁護していましたが、その中にある「ホモウシオス」という言葉だけは人間の造語であると



「エルサレムの
キュリロスのイコン」

18世紀：作者不詳

してとても嫌っていました。そのことによって、彼がキリストの神性に対する批判をしているという噂がたち、異端の疑いがかけられることとなりました。

379年、アンティオキア教会会議でその真偽を確かめるために、ニュッサのグレゴリオスがシリルのもとに派遣されます。そしてグレゴリオスはシリルの信仰を、正当であると証明します。

また、381年のコンスタンティノポリス公会議では指導的役割を演じ、エルサレム教会を全キリスト教界の母として強調します。

このシリルが主教をしていた351年5月7日に、約四キロメートルにわたって空に大きな十字架の形が現れ、太陽のような強い光が放たれたそうです。ギリシア教会ではこの奇跡を記念して、5月7日を今でも祝っています。

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士エルサレムのシリルの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン